海外だより

イギリスお天気事情

―タイムズの記事から―

木　村　竜　治*

8月24日のタイムズに，「bookmaker，雨で3万ポンド（約1千万円）の損失か（Rain threatens £30,000 damper for bookmakers)」という見出しの記事があった．bookmaker は，本とは関係なく，賭事を職業とする人のことをいう．イギリスには賭で商売する会社がいくつもあるらしい．ロンドンにあるジェームス・ハウエルという会社は，今年の8月1日から31日まで毎日ロンドンに雨が降るかどうかを賭の材料にした．

「ロンドンの雨」とは，正確にいえば，ロンドン気象台の屋上に雨が降るかどうか，ということである．気象台（Meteorological Office）では，降水日を判定する目的で，毎日8回，当番の職員が屋上に登って手を天にかざし，手がぬれれば「降水あり」と判断するそうである．従って，（気象台の判定に従えば）この賭ははっきり定義できるわけである．

8月はじめの賭率は25：1であったが，どういうわけか，今年のイギリスは天候不順で，8月24日現在毎日雨が記録された．この会社は多くの人を相手にこの賭を行ったために，もし負ければ1千万円近くの損失になる，という記事なのである．もっとも賭率は日を追って低くなり，8月24日の時点では2：1になったそうである．

8月の天候が賭の材料にされたのには，それなりの理由がある．イギリスの気候は日本に比べてはるかに単調である．9月から翌年の5月までは曇または雨の寒い日が多い．緯度が高いために冬の日照時間は日本よりも短い．6月から8月までが例年もっとも過し易い季節であるが，今年の6月の天候は，日本の梅雨を思わせるように，雨が多かった．7月も最初の週は好天が続いたが，その後は，デパートのサマーセールの広告がそらぞらしく感じられるほどの寒さであった（日中でも15°～20°C）．

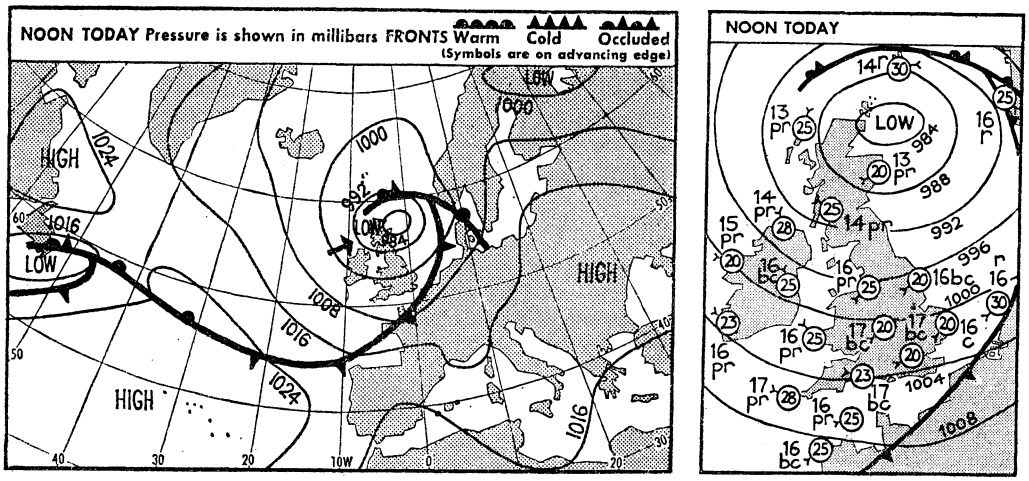

図　8月24日正午の予想地上天気図（左）とその拡大図（右）．拡大図の中にある記号の意味は次の通り：r=rain，p=showers，b=blue sky，C=cloudy，円の外の数字は気温（°C），円内の数字は風速（mile/h）（8月24日のタイムズより）

* Ryuji Kimura，東大海洋研（現在，ケンブリッジ大学研究員）．

そこで，夏の望みは8月だけになったわけだが，その8月が，一部の賭事愛好者をのぞいて，気がめいるような天候になってしまったのである．その恨みは，理不尽なことであるが，気象台に向けられる．8月23日のタイムズには，「まだカンに頼る予報官 (Instinct still reigns with the weathermen)」という見出しの特集記事が組まれ，天気予報のむずかしさが解説されていた．

イギリスの季節の変化は単調であるが，日本より天気予報はむずかしい．その理由は3つある．第1は，大西洋上の高層観測網が少ないこと．数値予報の初期値には，各高度の観測データが必要であるが，風上側のデータが少いので数値予報の精度が悪い．第2は，おもに閉塞期の温帯低気圧によってイギリス上空の大気が支配されていること（典型的な天気図を図に示す）．閉塞期の温帯低気圧は寒気と暖気が入り乱れており，前線の活動が活発でない代わりに，比較的小さな積雲から小雨が降ることが多い．第3は，緯度が高いので，静止衛星画像（メテオサット）の分解能が悪いこと．赤道上の静止衛星は浅い角度でイギリスを見るため，テレビの天気予報にも静止衛星画像が直接使われることが少ない（朝のニュースの時間のみ）．

タイムズ（8月25日の天気特集記事）には，自分が晴と予報を出したときにも傘を持ち歩くテレビの気象解説者の談話が引用されていた．すなわち，「気象解説者が傘を持たないで雨に合うのは，何ともサマになりませんから (Nothing looks sillier than a weatherman caught in the rain without his brolly.)」というものである．

26日になって，8月はじめて，ロンドンに雨の降らない日が記録された．多くのギャンブラーはがっかりした．湖沼地方 (Lake District) に1年に1度，湖の底から現れる村がある．1938年にダムができて水没したものであるが，夏の渇水期に水位が下ると出現するのである．去年は貯水量が全体の15%まで減少し，昔の村人は自分の家に歩いて帰れたそうである．しかし，今年の夏は雨量が多く教会の尖搭さえ顔を出さなかったという（8月30日の記事）．以上，時期遅れの話題で恐縮だが，ユーラシア大陸の西側の端にある島国のお天気事情をお伝えした次第である．（5月よりケンブリッジに滞在）

NEWS

サマースクールのお知らせ

気象学会あてに下記のサマースクールへの参加者の案内が届きましたのでお知らせします．

Postgraduate summer school on

「REMOTE SENSING APPLICATIONS IN METEOROLOGY AND CLIMATOLOGY」

日　時　1986年8月17日～9月6日

場　所　University of Dundee（スコットランド）

内　容

Introduction to atmospheric physics and remote sensing

Data acquisition

Pattern recognition and image processing

Satellite data as input to numerical weather prediction models

Satellite data and hurricane prediction

Use of radar and satellite data for estimation of precipitation

Observations of the middle atmosphere from satellites

Studies of synoptic and mesoscale systems from satellites

Cinematographic methods for the study of atmospheric motions

Multispectral classification of clouds, fog and haze

Remote sensing of sea-surface winds

Atmospheric moisture and oceanic latent heat flux

Climatological data set and climatological modelling

Earth-atmosphere radiation budget and climatology from satellites

なお，この他にインフォーマルなセミナーもいくつか用意されているそうです．

また，希望者にはいくらかの費用が支給される場合もあるようです．

詳しい資料が御入用の方は下記に直接問い合わせて下さい．

Dr. W.M. Young,
1986 Summer School Secretary,
Carnegie Laboratory of Physics,
University of Dundee,
DUNDEE DD1 4HN,
Scotland, UK.